

## 2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 金沢大学 ] 担当教諭名 [ 鈴木 克徳 ] (サークル金沢カーブの会 : 2年生 6名, 4年生 2名, 院生 1名)

相手国・地域 [ タイ ]

海外学校名 [ Chulalongkorn University ] 担当教諭名 [ Athapol Anunthavorasakul ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	サークル活動	時代の移り変わり (transition of era)	40

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	時代の移り変わり (transition of era)
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	We need to consider our life today and develop warmer relationship within families and with friends in neighborhood and other countries. 私たちは今日の生活を考えなおす必要がある。つまり、私たちは、家族、親しい友人や他国の友人との関係性がより温かいものになるように努力すべきである。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
様々な学部や学年の学生たちが授業後に自主的に集まりアートマイルを行った結果、学生たちが自ら計画して計画を実行していく力を身に付けることができた。 タイからの連絡が遅れることが頻繁にあり計画・予定の変更を迫られていたので、計画変更への対応力を身に付けていった。 タイの学生と Skype を通して交流することで、言語が違っていても同じ目標を共有しそれを達成できることを知った。	Skype での交流は一度しかできず、継続な交流を通してお互いのことを理解することができなかった。 英語での交流に学生たちは慣れていないので、なかなか積極的に交流に関わることができなかったことが残念である。

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

学生の意識の変化	教師の意識の変化
タイに関する関心が高まった。 タイの学生と Skype を通してもっと交流したいという意見が多かった。 現地に行って交流できれば、もっと近い存在になることができたろうという意見もあった。 タイに実際に行ってみたいという学生もいた。	自分が直接担当するクラスやゼミでないで、なかなか学生との時間調整が難しかったが、学生たちが良く努力してくれた。 教員自体はタイとは長い交流をしているので意識に変化はなかった。 日本側とタイ側の休み等の時期が異なるので、Skype 等を通じた両国の学生たちの交流がなかなか難しく、思うほどできなかった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	学生の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	6月に日本から自己紹介ビデオレターを送った。 タイからは12月ごろに自己紹介ビデオレターを送られてきた。	ビデオレターづくりは楽しんで取り組んで行っていた。学生たちは互いに発想を出し合いながら制作していった。	サークル活動
共有 テーマ学習	10月 11月	鈴木先生と一緒にテーマ決定を見据えながらタイについてそれぞれ調べてもらっていた。 日本側が提案するテーマを決定したのは11月ごろである。 テーマやメッセージを伝えるためのPPTを作った。	始めはあまり意見が出なかったが少しずつ意見が出てくるようになった。 PPTができてからは活発に意見が出るようになり、話し合いもよく進むようになった。	サークル活動
融合 メッセージ 壁画デザイン	12月	日本側でキャンバスの使用分担案を考え、タイ側に提案した。 事前にFacebookでテーマ、メッセージやデザイン案を伝えて何度か意見にやり取りをしていた。したがって、Skype会議はスムーズに進行した。	デザインは学生たちが自分たちで集まって何度も意見を出し合っていた。デザインの決定方法や期限なども学生たちが決めていたので、このころは学生も積極的にかかわっていた。 Skype会議後は交流をしたという達成感を持っていた。タイの学生から反応があることを喜んでいて。アタポン先生の英語が良くわからず、英語を勉強しようという学生が多かった。	サークル活動
創造 壁画制作	12月 1月	日本側は12月中に絵を完成させた。タイは1月いっぱいをかけて絵を完成させてくれた。 絵が日本に届いたのは2月4日。	絵も楽しんで書いていた。丁寧に絵を書こうという人が多かった。	サークル活動
評価 振り返り 自己評価	2月	一度、鈴木先生と一緒に短く振り返る時間を取った。ただ、テスト期間中であつたので、振り返りや自己評価のために使える十分な時間はなかった。	タイから日本に絵が届いたとき、達成感とタイへの感謝を述べている学生が多かった。終わったときは充実している感じだった。	サークル活動

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学生による自己評価

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	5	日本の現代の家庭は昔に比べて、人間関係が希薄化していることを知った。
異文化の理解	A	5	タイも日本と同じように家庭内での人間関係は希薄化していることを知った。ネットを活用してタイの文化や仏教由来の習慣を学んだ。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	2	Facebookでの交流は限られた人しか情報発信していなかった。Skype会議は一度しかできず十分な交流はできなかった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	ネットを使って情報収集していた。大学生なのでネットを活用できて当たり前だと思う。
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	B	2	上記の理由であまり交流できずタイとの学生と深い人間関係を築けなかった。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	自分たちで役割を分担して、困ったことがあればお互いに助け合うことができていた。
学習を追究する意欲	A	5	授業後の先生とのディスカッションの時間には毎回5人から10人程度の学生が参加していてアートマイルへの意欲は高かった。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	A	5	テーマやメッセージは自分たちで練って考えることができた。メッセージを絵のデザインに反映させた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	C	2	2月はテスト期間なので時間がなく学習の自己評価の時間はあまりとれなかった。しかし、大学のスケジュールから予測できていたので仕方ないと思う。